

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ケスイバ・デボル宇宿		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 28日		～ R7年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	R8年 1月 28日		～ R8年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 15日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校・家庭との三者連携による多角的な支援	送迎時や学校行事への参加を通じ、担任の先生や保護者様と日頃から直接対話しています。支援上の配慮事項や家庭・学校での変化を共有し、実効性の高い計画を作成できている	連携で得た情報を集約し、より長期的な視点での「個別の支援計画」のブラッシュアップに繋がっていきます。
2	児童の心理的回復力の育成	・スモールステップでの成功体験を積み重ね、児童の自己肯定感を高めています。 ・失敗しても「次がある」と思えるような、心理的安全性の高い環境づくりを行なっている。	専門的なアセスメントをさらに取り入れ、児童の「強み」をより客観的に言語化して本人や家族に伝えていきます。
3	信頼関係を基盤とした安全管理体制	日頃の密なコミュニケーションにより、微細な変化を保護者様から共有いただける関係がある。 事故防止や緊急時の迅速な対応の土台となっています。	ヒヤリハットの共有を「組織の学び」として定着させ、安全の質を磨き続けます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流や、きょうだい児支援の機会不足	送迎サービスの利用が主であるため、保護者様同士が顔を合わせる機会が物理的に少なく、横の繋がりが希薄になりやすい傾向にある。	定期的な茶話会や、SNSを活用した緩やかな情報交換の場を企画します。
2	専門的な家族支援プログラムの実施	個別の相談には随時応じているものの、ペアレント・トレーニング等の体系的な研修や、複数の保護者が集まって学ぶ機会を提供できていない。	職員の専門スキル向上を図るとともに、外部講師の招聘や、オンラインを活用した「気軽に参加できる勉強会」の開催を検討
3	安全計画や虐待防止の取り組みの「見える化」と周知二	内部でのマニュアル整備や訓練は実施できているものの、その具体的な内容を保護者様へ十分にアピール・周知しきれていない現状がある。	掲示板、保護者会などを通じ、事業所がどのような「安全計画」に基づきお子様を守っているかを分かりやすく発信し、安心感を可視化します。

従業者向け

## 放課後等デイサービス評価表

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		利用スペースの確保はできていない。棚などを活用し収納を工夫していることでより多くのスペース確保に努めている。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		基準配置は常に満たしている。送迎のルートや時間を細かく調整することで、職員一人における支援する児童の割合を少なくするなどの配慮を行っている。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		事業所物品に対しては視覚的な案内を行い、児童度が把握できるように努めている。バリアフリー化できている箇所はないが、物品の位置など安全面に配慮した配置を行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		整理整頓はスタッフ、児童ともに心がけて取り組んでいる。掃除を毎日行い、安心空間の確保の取り組みを行っている。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		児童の特性に合わせた「クールダウン用スペース」のバリエーションをさらに増やし、より個々の状態に合わせた環境設定を追求したいと考えています。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		全職員がPDCAサイクルに参画し、日々の気づきを即座に支援へ反映させている。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者アンケートの結果も真摯に受け止め、透明性の高い運営に努めていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		支援開始前後のミーティング徹底し、チーム全体で一人ひとりの特性についての支援を行っています。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		評価は真摯に受け止め、今後も業務改善に繋げていく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		外部研修の機会をさらに増やし、そこで得た知見を内部研修で還元するサイクルをより強固にしていきたいと考えています。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		「選ぶ力」を育てるため、活動の合間に自己選択の機会を設け、成功体験の積み重ねを重視したプログラムを構成しています。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		課題に関しては事業所スタッフのみではなく、家族や他関連事業所からの意見を確認し計画を立案。計画には児童の思い、家族の思いを反映させて計画立案を行なっている。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		アセスメントや担当者会議では所属スタッフ複数の職員が介入し、計画の立案に対して意見を持ち寄って計画を立案している。

14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>	個別支援計画はスタッフで共有を図り、どのスタッフが介入しても計画に沿った支援が提供されるような取り組みを行なっている。またスタッフで計画に対して実施した内容の評価を行なっている。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>	アセスメントツールの活用頻度を高め、より客観的なデータに基づいた計画作成の精度を向上させていきます。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>	個別支援計画の作成にあたり、「本人支援」だけでなく、ご家庭の休息や相談に応じる「家族支援」、学校や将来の生活を見据えた「移行支援」、そして学校や地域と手をつなぐ「地域連携」の4つの視点を盛り込んでいる。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>	特定の職員だけでなく、児童指導員、保育士、機能訓練担当など、異なる専門性を持つスタッフが意見を出し合うことで、運動・学習・創作などバランスの良いプログラムを立案しています。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>	日々の支援の中で気づいた児童の興味・関心や課題を、チーム内ですぐに共有し、「次はこうしてみよう」という具体的な活動案に繋げる体制が整っています。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>	集中して課題に取り組む必要がある場合や、集団の中で不安を感じやすい児童に対しては、個別のスペースやプログラムを用意し、安心して過ごせる時間を確保しています。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>	集団の中で不安を感じやすい児童に対して、個別のスペースやプログラムを確実に用意しています。これにより、児童がパニックや過度な緊張を避け、安心して過ごせる時間を確保できています。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>	全体のスケジュールに合わせることを優先せず、その日の児童の情緒や体調をスタッフ間で共有し、個別のペースで活動をスタートできるよう柔軟に調整を行っています。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>	「できたこと」や「成功した声掛け」を具体的に記録し続けることで、スタッフ間での支援の統一を図るとともに、モニタリング時における成長の根拠として活用。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>	目標達成度を数値化したり、特定の行動の頻度をグラフ化したりするなど、誰が見ても成長が実感できるような指標を考えています。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	<input type="radio"/>	身支度や手洗い（生活）、指先を使った制作（感覚・認知）を組み合わせるなど、1日の流れの中で多角的な刺激が得られるよう配慮している
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	<input type="radio"/>	児童が提示された活動に対して「今はやりたくない」という意思を示した際も、その気持ちを否定せず、納得できるまで待つ時間や、別の代替案と一緒に考えるプロセスも大事にしている
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>	今のリアルな姿」を関係機関へ共有でしている
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>	送迎時や学校行事などを通じて、先生方とも日頃からコミュニケーションを図り、支援上の配慮事項や家庭での変化をスムーズに伝え合える信頼関係を築いています。
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	<input type="radio"/>	学校内や送迎中にトラブルが発生した際は、即座に学校・家庭・事業所間で連絡を取り合う体制を整えています。事実関係の正確な把握と、その後の支援方針の一致を最優先に対応

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新規利用時には、就学前に利用していた保育所や児童発達支援事業所での様子を保護者様から詳しくヒアリングする
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	現時点では対象児童がいないため、情報提供を行う機会がない状態
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	外部の専門家に実際の支援現場を直接見てもらう機会をさらに増やし、環境設定や個別の関わり方について、より具体的・客観的なフィードバックを受ける機会を強化したいと考えています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の祭りやボランティア活動などへの参加機会を模索し、児童が地域住民とより深く触れ合える場面を増やしていくことで、社会参加の幅を広げていきます。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○	今年度の参加はなし
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎日の送迎時の対面による報告に加え、連絡帳やICTツールを活用し、その日の活動内容やできたこと、情緒の状態を詳細に伝えています
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		送迎時や学校行事などを通じた日頃のコミュニケーションを大切に、保護者が困りごとを気軽に相談できる関係性を築くことで、家族の心理的な回復を高める支援につなげている
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時には、運営規程や利用者負担額について、重要事項説明書等の書面を用いて丁寧な説明を実施。特に支援プログラムの内容については、実際の活動の様子が伝わる資料等も併用し、納得感のある説明に努めている
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		聞き取った意向がどのように計画の各項目に反映されたのかを、保護者様により明確に説明できるよう、アセスメント資料と計画書の連動性をさらに高めていきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画内容がご家庭のニーズと合致しているかを確認しやすく、実効性の高い計画への同意を得るプロセスに繋がっている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や学校行事などを通じた日頃のコミュニケーションを大切にすることで、保護者が困りごとを気軽に相談できる信頼関係を築いている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		年に1回保護者会を開催し事業所概要や支援の内容についての説明の場を設けている。また実際の児童の様子を見て頂く機会も提供し支援の様子を保護者も確認できる環境を提供している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		運営規程に基づき、苦情受付担当者、苦情解決責任者、および第三者委員を設置し、その連絡先を重要事項説明書や事業所内の掲示により保護者様へ周知しています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的な事業所からのお知らせの発行や、HP・SNS等のデジタルツールを活用し、日々の活動概要や行事予定を可視化しています。これにより、保護者様がお子様の事業所での様子を具体的にイメージできるよう努めています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護規程を整備し、お子様や保護者様の個人情報、および支援記録等の機密文書は、鍵付きのキャビネットやアクセス制限を設けたデジタル端末で厳重に管理

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>		保護者様に対しても、専門用語を避けた分かりやすい説明を心がけ、支援上の配慮事項を丁寧に共有
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>		近隣店舗での買い物学習、定期的な公園での活動などを通じて、地域住民の方々へ日頃から挨拶を行い、お子様たちの活動を身近に感じていただけるよう努めています
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>		マニュアルを形骸化させないよう、火災・地震を想定した避難訓練などを定期的の実施しています。訓練後には必ず振り返りを実施。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>		大地震や風水害、感染症の蔓延などの非常事態においても安全を確保し、可能な限り支援を継続できるよう、具体的な優先業務や職員の参集基準を定めた業務継続計画（BCP）を策定
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>		利用開始時の面談において、服薬内容、アレルギー、予防接種の履歴、てんかん発作の有無やその際の対応手順について聞き取りを行い正確に把握
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>		家庭でのアレルギー症状の有無などをスムーズに伝え合える信頼関係を築いているため、お子様のコンディションに合わせた柔軟かつ慎重な対応が可能
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>		事業所独自の「安全計画」を策定しています。送迎時の安全確保、施設設備の安全点検、不審者対策、災害時の対応方針などを網羅し、全職員で共有
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>		保護者様も実際に参加・体験できる機会を設け、より実効性の高い安全体制を共に作り上げていきたいと考えている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>		収集した事例は、定期的な職員会議で分析を行っています。動線の変更や手順の見直し、環境設定の改善など職員で協議
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		虐待防止マニュアルに基づき、全職員を対象とした内部研修を定期的の実施して流。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		身体拘束は基本的にお子様の権利を制限するものであり、原則禁止であることを職員間で徹底して流。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	ケスイバ・デボル宇宿				公表日	2026年 2月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		発達支援室の広さに合わせ、ゆとりを持った定員管理を行っています。	季節行事の際など、一時的な密集を避ける工夫を継続します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		お子様の状態に応じ、基準以上の人員を配置し手厚い支援を行っています。	急な欠勤等にも対応できるよう、スタッフ間の適正な配置を今後も実施していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。		<input type="radio"/>	視覚的なスケジュール掲示など、情報の伝達に配慮しています。	将来的な多様なニーズへの対応をさらに検討します
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		清掃活動を毎日実施し清潔保持に努めている。また児童へ活動の一環として掃除の時間を取り入れて、児童も整理・清潔への意識を向けている。	老朽化への早期対応や、よりリラックスできる備品の導入を検討します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		集中したい時やパニック時に使用できるスペースを設けています	利用が重なった際の、代替スペースの確保が課題
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		月1回の職員会議で目標設定と振り返りを全員で共有	現場スタッフからの提案をより迅速に運営に反映させる仕組みを強化
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		年1回のアンケートを実施し、その結果をHPで公表・改善に繋げている	日常的な会話以外の「声」を拾い上げる機会を増やす
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		定期的な面談を通じ、現場の困りごとを吸い上げています	誰でも意見を出せる仕組みの導入を検討
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	現時点では未実施	今後検討していきます
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		外部研修への参加支援を行い質向上を図っています	研修で学んだ内容を事業所内でアウトプットする場が不足
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		運動・学習・SSTなどのプログラムを明確にし、HP等で公開	プログラムの効果を定期的に数値化し、更新する体制を整える
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		本人の希望や家庭環境を詳細に聞き取り、個別支援計画に反映	アセスメントの精度をさらに上げるため、ツールの熟練度を向上させる必要あり
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		支援会議を開催し、多職種で最善の策を検討している	会議時間の確保と、密度の向上が常に課題
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		計画に基づいた活動ができているか支援や記録で照らし合わせています	計画の目標が形骸化しないよう、柔軟な微調整を意識し反映させていく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		多角的なアセスメントで行動観察を行っています	標準化された検査ツールの導入と活用が必要

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに基づき、家族・地域支援も含めた項目を設定しています。	「移行支援」について、より長期的な視点での項目設定を強化。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		特定の職員だけでなく、チーム全員でアイデアを出し合っています	職員のアセスメント内容をより均等に共有できる仕組み作り
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節ごとのイベントや、新しい療育教材を積極的に取り入れています。	活動内容が固定化されないよう変化の付け方をさらに工夫。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個人の課題と、社会性を育む集団活動を時間割で分けています。	集団活動に適應できない場面で、個別フォローの質を高めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前の打合せ 登所前にその日の役割分担を必ず確認し、連携を強化しています	短時間で効率的に、かつ漏れのない申し送りを行う技術の向上を図る
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後の振り返り 終礼で「良かった点」「課題点」を共有し、翌日に活かしています	振り返りの内容が単なる報告にならないよう、深い分析を心がける
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		デジタルツールを活用し、即時に記録が取れる体制にしている	記録を読み返し、支援の「質」の変化を分析する時間の確保が課題
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に面談を行い、必要に応じて計画を迅速に修正している	計画変更の理由をより具体的に記録し、根拠のある支援を目指す
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「5領域」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を網羅	項目によって内容に偏りが出ないように、活動比率を再点検
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		どっちにする？」等の声掛けにより、自分で選ぶ機会を設けています	選択肢の提示方法を、個々の認知レベルに合わせてさらに実施していく	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援事業所と連携し、積極的な意見交換を行っています。	日程調整の難しさはあるが、可能な限り対面での参加を目指す。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		協力医療機関を定め、緊急時の連絡体制を整えています。	地域の教育機関との顔の見える関係をさらに広げます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		下校時刻の確認や、行事予定の共有を頻繁に行っています。	宿題への対応や学校での様子について、共有内容を上げることが課題。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		利用開始時に、以前の支援内容の聞き取りを行っています	卒業後の追跡調査や、継続的な情報交換の仕組みをより強固にしておく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			就労支援機関等との見学・体験の機会をもっと増やしたいと考えています
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			個別の事例検討について、より深い助言を受ける機会を模索
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			公園での活動時など、地域の関わりなどを大切にしています。	一歩踏み込んだ交流はまだ不足しています

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○		まずは内容を理解し参加することを目標とします。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達 の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時の会話や日々の記録を通じ、小 さな成長も共有しています。	長期的な発達目標について、家庭とよ り深く合致させる話し合いが必要
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支 援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の 参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレント・トレーニング等の本格的 な講座の開催が今後の目標。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な 説明を行っているか。	○	入所時に重要事項説明書に基づき、丁 寧に説明しています	情報のアップデートを随時分かりやす く伝えていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保 護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点 を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けて いるか。	○	計画作成時に、保護者の希望とお子様 の意欲を優先しています	本音がうまく引き出せない場合の、手 法の工夫が課題
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説 明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を 得ているか。	○	支援内容を説明し、必ず署名・捺印に よる同意を得ています。	内容への「納得感」をより高める説明 を心がけていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、 面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	保護者の悩みに寄り添い、随時個別面 談を実施し	専門外の悩みに対しても、適切な相談 先を案内できるよう知識を蓄えてい く。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する 等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援を しているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設け る等の支援をしているか。	○	保護者会・交流支援 情報発信を通じ、 保護者間のつながりを緩やかに支援し ています。	保護者への呼びかけの改善や参加率は 今後の課題
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備す るとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合 に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情対応体制 苦情受付窓口を掲示し、 迅速に対応する体制を整えています。	不満を早期発見する、感度の向上が課 題
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用す ることにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を こどもや保護者に対して発信しているか。	○	情報発信(HP・SNS) 定期的な通信 の発行やHPの更新を行っています	SNS等をさらに活用し、よりリアルタ イムな活動報告を目指します
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	鍵付き書庫での管理や、デジタルデー タの暗号化を行っている	ルールの徹底を再確認し続けます
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のた めの配慮をしているか。	○	覚支援カードやジェスチャーを用い、 伝わりやすさを工夫しています	伝達ツールが豊富でないため、物品を 整えていきます
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事 業運営を図っているか。	○	地域への活動参加時の挨拶回りやSNS 、HPでの活動紹介を行っています	ボランティアの受け入れなど、地域住 民が関わる機会の創出を検討します
非 常 時	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マンユ アル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に 周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している か。	○	感染症や防犯等のマニュアルを整備 し、訓練を実施	マニュアルが形骸化しないよう、実情 に合わせた毎年の見直しが必要
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発 生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っ ているか。	○	業務継続計画を策定し、大規模災害を 想定した訓練を行っています。	被災時の代替施設の確保など、実効性 をさらに高める必要がある
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状 況を確認しているか。	○	服薬やアレルギー情報を事前に把握 し、毎朝の検温を実施しています	緊急時の連絡先変更などが、常に最新 であるかチェックを強化
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基 づく対応がされているか。	○	事前調査時に誤食リスクの確認、防止 のチェックを行っています	アレルギー反応時など、実践的な備え を徹底します

常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		車両の安全確認や、遊具の点検をリスト化して行っています。	学路の危険箇所の再点検など、屋外での安全管理を深掘りします
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	計画の内容を保護者に配布し、安全意識を共有	周知するだけでなく、家庭での安全対策との連携を模索していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		軽微な事例も報告・蓄積し、再発防止策を話し合っている	「報告すること」が目的にならないよう、根本的な原因分析を重視していく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修や動画研修を活用し、人権意識を高めています	カウンセリング等を通じ、職員の心のケアを行うことも虐待防止に繋がります
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		原則として身体拘束を行わない方針を徹底し、保護者へ説明しています	やむを得ない場合の具体的な判断基準を、組織として常に周知していく必要がある

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ケスイバ・デボル宇宿

公表日 2026年2月20日

利用児童数 30

回収数 21

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	1	0	2	中高学年の児童が10名以上で活動しているの、狭くて危険ではないかと感じる	リスクも考慮して活動にはルールを都度設けて支援を実施。また相手に配慮した心を持つことができトレーニングのひとつになっていると考える
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	1	1	2	課外活動の際は、職員の数を増やして欲しい	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2	0	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19	0	0	2		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	4	1	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19	1	0	1	先生方と話す機会がなかなかない為、どんな先生がいらっしゃるのかも分からない。子供の事を理解されているのも分からない。	現在、送迎時は以外で定期的に共有できる場がないため今後情報交換できる機会を増加していく
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	1	0	3		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	0	0	2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18	2	0	1	楽しそうなのは分かるのですが、沿っているかどうかは、素人なので分からない部分がある。	日々の記録で児童の様子を記載しているが、内容の見直しを行い保護者の方がより理解できるような情報提供を行う
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1	0	1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13	1	2	5	駄菓子屋さん、良いアイデアだと思いました	地域交流の一環として今後も継続していく
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	0	0	1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	0	1	2		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	0	1	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17	2	1	1	送りの際など、必ずその日の活動の様子を伝えてくれるのでありがたいです。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	3	1	0	数ヶ月に一度、希望者だけでも構わないので面談の機会があるといいです	希望者の面談は実施しているが、事業所からの面談実施の情報をさらに発信していく

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	3	0	1	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	19	1	0	1	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	0	0	1	LINEで連絡が取れるのは、大変ありがたい
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	0	0	1	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	20	0	0	1	活動の写真を見るのが毎日の楽しみです
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	0	0	1	
	非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	0	1	8
24		事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	0	1	9	
25		事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	0	1	2	
26		事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	0	0	3	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	18	0	0	2	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	0	0	1	長期休みや土曜日などのイベントをととても楽しみにしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	0	0	1	送迎等もしてもらっている為、見えない部分が多いことが分かりました。もう少し、事業所の活動を見学するなどして、見てみようと感じました。ありがとうございます。